

# 研修報告書

令和7年7月27日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員 松本 長治

私が出席した次の研修視察の結果について報告します。

## 記

1. 研修等名 令和7年度 会派視察研修
2. 研修期間 令和7年7月14日（月）～7月16日（水）
3. 研修場所及び目的
  - 「ライトアップによる観光地の魅力化について」  
小樽 （小樽市）
  - 「がん治療について」  
北海道がんセンター （札幌市）
  - 「博物館の展示と運営について」  
函館市縄文文化交流センター （函館市）
  - 「これからの観光について」  
函館市役所 （函館市）
4. 調査内容感想等
  - ・研修の目的

### 【ライトアップによる観光地の魅力化について】

観光地を違う角度から見直し、新たな魅力を引き出す手段として、また、観光客の方に少しでも快適に、少しでも長く長浜市にいていただくためにも、あらゆる面で調査を行いたい。

### 【がん治療について】

自分の体を犠牲にしても、患者さんのがんに向き合われた西尾先生のお話から、がん治療の歴史と、これからの心構えを学ばせていただきたい。

### 【博物館の展示と運営について】

長 浜 市 議 会

小谷城戦国体験ミュージアムが計画されている本市において、ミュージアムの建設・運営のあり方について学ばせていただきたい。

【これからの観光について】

観光の街、函館市の観光の現状と、今後の取組みについて学びたい。

・研修内容

【ライトアップによる観光地の魅力化について】

ライトアップされた建物を見て歩く、ロマンチックな街歩き。「小樽ライトアップ散策ガイドツアー」

なども開催されており、小樽観光ガイドクラブのエキスパートの方が、ライトアップされた歴史的建造物を案内しておられます。旧国鉄手宮線を出発し、旧小樽倉庫で解散する約1時間のツアーですが、予約なしで、参加費も無料とのこと。残念ながらこの日は開催されませんでした。昼の姿とは違い、幻想的な街並みと、何よりも、近年の酷暑の中の街歩きではなく、少し涼しくなった時間帯となる事。滞在時間の延長にも大きく貢献する事も含め、とてもいいアイデアだと考えます。

非常に有意義な時間を楽しめるとともに、これからの観光には大きなヒントになると考えます。

【がん治療について】

西尾先生が がん治療に関わることになった理由を説明していただきました。

血管造影 CT の出現や、当時、北海道にリニアックは8台しかなかったことなど、長年にわたる環境の変化と、自分自身の知見などから進めてこられたがん治療の歴史を細かくお話ししていただきました。

特に印象に残るお言葉として、がんは人によって全部違う。初見、健診ができてるいか否かが重要で、若手の医師にもご自分の経験から有効と考える、イラストを描かせ、治療をより明確にしていくと言われた事。また、診断学 治療学は、全く領域が違う。といった説明を詳しく説明していただき、多くの患者さんの命を救う裏には、ご自分の身を投げ出す覚悟を感じました。

【博物館の展示と運営について】

函館市縄文文化交流センターは、南茅部縄文遺跡洋構想における縄文文化の普及啓発、調査研究、情報交流を目的に整備された施設です。平成23年10月に開館した登録博物館で、全国で唯一国宝を展示する道の駅「縄文ロマン南かやべ」としても知られています。

構造は鉄筋コンクリート地上2階建て、面積：7,140.65 m<sup>2</sup> 建物延床面積：1,733.43 m<sup>2</sup> 建物全体が博物館法に基づく登録博物館である事。国宝「中空土例」をはじめ、各種指定文化財を常設展示されています。

指定管理者制度による管理・運営（平成28年4月1日から）されており、体験学習や定期講座等の実施、展示室は1階と2階に4つのコーナーを設けているほか、2階の展望スペースには各種パネルを展示されています。

体験学習・定期講座も実施されており、体験学習室においては、手軽に縄文文化を体験できるとのことで、「ミニチュア土器づくり」、「細文編み」、「縄文ペンダントづくり」など有

料メニュー7種、土器復元や塗り絵などの無料メニューが用意されているとのことでしたが、中でも「縄文釣り体験」はぜひ体験してみたいと感じました。

・建設費 633,867千円

一般	個人：300円	20人以上の団体：1人につき240円				
学生・生徒・児童	個人：150円	20人以上の団体：1人につき120円				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
利用件数	20,402	18,307	29,838	36,936	31,551	30,794
使用料収入	4,702,950	3,499,350	6,386,760	8,324,550	7,258,020	7,026,420

・当該施設の利用者一人当たり税金投入コスト

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	2,062円	2,364円	1,501円	1,143円	1,306円	1,345円

### 【これからの観光について】

函館市観光基本計画と今後の取組・展望について、本来、観光は民間がやるべき。しかし、関係人口・交流人口を増やす必要があるので市が関わるとのこと。ちなみに、市の人口は1982年321,385人であったが、2024年236,515人にまで減る。

観光入り込み客数はコロナ以降伸びた。2024年に600万人。

クルーズ船のターミナルを整備した。2023年47隻であったが、今年度76隻。ちなみに冬期は海が荒れるのでほぼ入港はない。

中国の観光客が急激に増えた。

ホテルの経営では、従業員（観光従事者）の確保などの問題から、客数を追うことは難しい。（フルに宿泊客を入れられない）だから、付加価値による単価上昇を目指す。2,300億円（700万人×33,000円）

他職種への波及効果として ・シーツ ・食材 ・おみやげ ・ごみ収集 など

・『市民生活が豊かになる』が目標

・質の高い観光により、観光消費額を向上させる。

観光入り込み客数増だけを目標にするのではなく、観光客の満足度が高い良質な観光を提供すること。 函館市の平均宿泊数 1.23泊→1.48泊

『函館×名探偵コナン』参加者33万6,000人

・スタンプラリー ・フォトスポット ・パネルラッピング電車 ・市電

・バス共通1日乗車券 ・歓迎フラッグバナー設置

① 秋はこだて MOMI-G フェスタ

冬湯の川 冬の灯りはこだてクリスマスファンタジー

はこだてイルミネーション

② インバウンド向け秋冬の誘客プロモーション

東南アジアなど、暖かい地域からの観光客は、雪を楽しみに冬の北海道へ。

・台湾プロモーション ・ベトナムプロモーション

③ 函館観光を盛り上げる人を増やす

函館市民が函館観光に関わり、一緒に函館観光を盛り上げる地域づくり

④ 観光を通じて函館が潤う地域づくりを進め、観光への市民理解を促進する観光産業はすそ野が広く、観光消費が幅広い産業に好影響があることを周知

・函館への愛を語ろう 「#ハコラブ」

- ・函館の魅力が様々な目線で発信されることを期待
- ・市民が地域の盛り上がりを感じることでできる食のイベント
- ・ロケーション支援事業
- ・これからを見据えた広域連携
- ・北海道新幹線札幌延伸を見えた新たな広域連携
- ・北海道大半島広域連携（観光客の滞在日数の延長）
- ・イーストジャパンキャンペーン（より遠方から観光客をエリアに呼び込む）

#### 今後注力していきたい事業

- ・函館市が考える広域連携の未来像
- 北海道・東北新幹線ルートを基軸に、在来線エリアを巻き込んだ周遊ルートを構築・定着させ、その交通結節点となる函館エリアをハブとした、『大周遊エリアの確立』
- ・函館山夜景魅力度向上事業・オーバーツーリズム抑止
- 函館山夜景の混雑解消による『質の高い観光の提供』および『ナイトタイムエコノミーの促進』
- ・宿泊税を活用した持続可能な観光地づくり
- 『単年度税収入4億円』を見込む宿泊税を活用し、各観光基本方針の充実化を飛躍的に加速させる。（単純に、観光事業として2倍の資金投下ができることとなる。）
- 問題として、北海道も課税の計画があり、同時にスタートできるかどうか、難しい課題。税の使い方をしっかり伝える必要がある。
- ・北海道新幹線10周年に向けての取組み
- JR 東日本：青森県・北海道道南地域キャンペーン事業
- JR 北海道：北海道新幹線開業10周年キャンペーン
- 2次交通の整備政策投資銀行 デビックとは別
- 函館山は国有地である事。
- ・タイミーの活用（スポットアルバイト）
  - ・市から観光協会への資金3,500万円 イベント運営が主になっている。
  - ・市長が公約の中で、DMOの設立検討。しかし、派遣法による難しさがある。

- ・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

函館や小樽は国内でもトップクラスの観光地ですが、有名な観光地であるからこそその悩みや将来の展望を確認させていただきました。今の長浜の状況とはかなりかけ離れており、確かにその差を感じますが、逆に言えばインバウンドも含め、まだまだ本市にはやれることがあると感じました。

時間の使い方、同じ素材の見せ方、長浜の文化や歴史との融合などですが、実行に移すためには、人づくりと合わせ、実態に即した計画を立て無理なく実行し、広報していくことが必要であると思います。

また、長浜では病院の再建・再編が問題となっておりますが、そこで働く医師やメディカルの方々の、仕事に対する情熱や責任感。これからの医療を取り巻く環境について、立場に応じ最適を目指す必要を感じると共に、まずはしっかりとリスペクトの気持ちを怠っては

ならないと思いました。

---

最後に博物館の展示と運営についてですが、最初のグランドデザインを取り違えると非常に問題が大きくなると感じました。施設の利用者一人当たり税金投入コストも発表されており、この視点こそが今後多くの事業において重要になると考えます。例え税金を投入してでも、後世に引き継ぐ必要があると考えられるかの議論が必要との観点からです。何を必要と  
考え、何を不要と考えるかは人それぞれ。許す範囲も人それぞれですが、理解と納得のための協議ができるよう、心がけていきたいと思います。

---